

地域とメディアはどう関係してきたか —1960—70年代のNHK地方局の活動から—

静岡文化芸術大学 文化政策学部文化政策学科

加藤裕治

(共同研究者: 同学部学科 船戸修一)

(※本研究は静岡文化芸術大学学部長研究費での助成を受けております。)

①戦後直後のNHKを取り巻く状況

- ・農地改革,農業共同組合の成立など、一連の民主化政策がGHQの下で遂行
- ・放送を通じた地方(農村)の民主化の実施
- ・農作物増産を目的とした農業教育の手段
- ・・・など

→地方に根ざした地域放送(ローカル放送)の充実の必要性

1948年1月 ラジオ番組、『新しい農村』, 同年4月に『早起き鳥』など放送開始

②RFD(ラジオファームディレクター)の設立

- ・1949年4月 アメリカからの「輸入移植」という形で、農事番組の専門担当者であるRFD(ラジオ・ファーム・ディレクター)を全国のNHK地方局に配置。
- ・当初、広島、松山、大阪、名古屋、仙台、札幌の各放送局に3人程度、全国50の放送局に1人づつが配置され、東京と地域をつなぐ窓口になった。[NHK 1949]

→いくつかの課題

- ・農業知識への無理解
- ・地域情報収集の困難
- ・農業環境、風土、文化の違い
・・・など

③RFD通信員(農林水産通信員)の登場(以後、通信員)

- ・各地域個別の地域情報、農業知識などの取得の困難
- ・甲府や富山,松山の放送局などで,県の職員組織として各地区に駐在している農業改良普及員に放送通信員を委嘱。放送資料の取材ルートを作る動き。
(→現場からの必要性)
- ・各地域の農業改良普及員,生活改良普及員を中心にRFD通信員ネットワークを構築。
- ・開始当初、全国で600名ほどが参加

RFDが各局におかれるようになりましてからは、農家の私たち放送局に対する気持が違ってきていると思います。その一つとしてわれわれに対して非常な親しみを持つようになりました。(札幌中央放送局RFDの発言 [亀井圓了他1952:24])

とにかく放送局は非常に入り易いという印象を強くしているということは、やはり農事関係の放送が相当重要視されて来ている現れじゃないか。そうしてまた、放送局に行けば、何とかこれを解決してくれるというふうに、考えているのじゃないかということですね。

(仙台中央放送局RFDの発言 [亀井圓了他1952:25])

④聞き取り調査について —NHK局員、各地域の通信員、出演者など

- ・制度開始から半世紀以上が経ち、ヒアリングは60年代以降に関わった方々が中心
- ・放送人の方は現在でもつながりが存在（農事部＝ワンハンドレッドの会、など）
 - 現在までに、山口、石川、秋田で活動された方を調査。
 - 出身地域のまちおこし等で活躍されている方なども
- ・各地域の通信員の方々
 - こちらも、山口、石川、秋田、山形、新潟で活動されていた方を調査
- ・出演者の方々（TV放送など）

④RFDの聞き取りから —NHK地方局 局員の活動

- ・勤務期間は長いと一カ所5～6年。若手を中心。
- ・個人的な情報収集が必要
(通信員まわり、農協、農家 →人的ネットワークの構築)
- ・地域の伝統行事、歴史の発見
(→放送人としてのテーマの発見)
- ・放送外の活動のひろがり
(→地域での雑誌の発行、海外調査など(1960年代秋田のRFD))

→地域からの放送人への影響

⑤RFD通信員の聞き取りから 一地域の人々の放送参加

- ・ラジオ原稿の作成が中心
- ・単なる情報提供者ではない位置づけ
 - 番組制作の補助
 - 番組への出演
 - 事後の交流
- ・地域の交流促進
- ・自分自身の充実感

⑥地域メディアのアーリーナ性

- ・単なる情報提供者ではない位置づけ

⑦(本研究から見える)「地域メディア」の特徴

- ・放送(1)→視聴者(n)(1対n)という放送イメージの見直し
- ・放送(情報提供者)→視聴者・地域(情報受容者)という前提の転換
- ・詳細な地域情報・必要性の高い情報、話題への高アクセス性
- ・地域の人々の交流(出会い)の促進
- ・アーリーナ性(共同で番組を作ること)の楽しさ、地域の活性化
- ・地域の人々の「生きがい」

参考文献

船戸修一・武田俊輔・祐成保志・矢野晋吾・市田知子・山泰幸, 2012, 「テレビの中の農業・農村——NHK『明るい農村(村の記録)』を事例として」『村落社会研究ジャーナル』19(1):37-47.

亀井圓了他, 1952, 「座談会 RFDの活動の現況とその将来」『放送文化』7(6):24-28.

加藤裕治・船戸修一・武田俊輔・祐成保志, 2014, 「NHK『明るい農村(村の記録)』制作過程と「農業・農村」へのまなざしの変容——番組制作者に対する聞き取り調査をもとに」『マス・コミュニケーション研究』第85号:165-183.

武田俊輔・船戸修一・祐成保志・加藤裕治, 2014, 「戦後ラジオ・テレビ放送における「農村」表象のプロセス——媒介者としてのNHK農林水産通信員に注目して」『年報社会学論集』第27号:97-108.

ご清聴
ありがとうございました